



健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代



資金寄附者感謝状贈呈式において、感謝状をお渡しになる秋篠宮妃殿下

資金寄附者感謝状贈呈式 並びにお茶会開催

平成22年5月31日、リーガロイヤルホテル東京(東京都新宿区)において、結核予防事業資金として多額のご寄附を下された方や功績のあった方々に感謝状の贈呈式で秋篠宮妃殿下より感謝状が授与されました。



贈呈式の後のお茶会にて、結核予防事業資金として多額のご寄附を下された方や功績のあった方々と御歓談された秋篠宮妃殿下

「健康の輪第100号に寄せて」

健康の輪創刊100号を迎えるにあたり、全国の婦人会の皆様より御祝詞と御写真を多数お寄せいただきましたので、ご紹介させていただきます。

「健康の輪100号」に寄せて

全国結核予防婦人団体連絡協議会
会長 中畔 都舎子

全国結核予防婦人会だよりとして、皆様方に愛され親しまれてきました機関紙“健康の輪”がこの度100号を数えることになりました。創刊号が昭和52年11月発行で35年以上の幾星霜を経、全国会員の皆様方との唯一のパイプ役としての役割を果たしてきました。その間先輩の方々、事務局の御尽力をはじめ編集に携っていただきました皆様方の御努力の賜物であり心から感謝申し上げます。



なかでも御寄稿下さいました多くの会員一人ひとりが、自分の健康は自分で守り、健康は家庭を明るくし、社会の健全につながることをはじめ、複十字シール運動を通して世界中に健康の輪が広がることを願う熱い思いが行間に滲み出ています。皆様方と共に歩んできた結核予防婦人会の生きた歴史として末長く語り継がれていくでありましょう。長年広報紙から得られるバリュー、効率の良さは何物にも代えがたいと思います。

今、インターネットの拡大で情報がリアルに伝えられ個人レベルでもその発信が容易にできるようになりました。しかし実際に一人が読んだり見たりする量には限界があります。

婦人会の具体的な活動に“重み”をつけられるのが活字文化の強みだ

と思います。ネットには及ばない部分ではないでしょうか？

今後、豊かな未来への架け橋として結核は過去の病気ではなく、今なお主要な感染症であるという情報発信の中核的な実践団体である婦人会に自信と誇りを持ち、一層内容の充実と変化する社会情勢をタイムリーに伝えられるよう努力して参りたいと存じます。

「健康の輪100号」発行を迎えた婦人会へ

厚生労働省健康局結核感染症課長
亀井 美登里

「健康の輪」が記念すべき100号を迎えるにあたり、改めて婦人会をはじめとする関係者の皆様方へ、日頃の結核対策に対する格別の御尽力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

我が国では、これまでの婦人会をはじめとする皆様方の結核に対する地道な取組みが功を奏し、戦後には人口10万人当たり600人以上であった結核罹患率は、30分の1以下に改善され、現在では19人程度まで減っております。しかしながら、近年では都市部におけるネットカフェ等での若年層の感染など新たな課題も出てきており、我が国が低まん延国を目指すにあたり、これまで以上に地域の実情に応じたきめ細やかな対策が必要とされているところです。

こういった状況の中、厚生労働省としては、自治体を初めとする関係者の皆様方と連携しながら一層対策

を進めてまいります。全国的な組織を有する婦人会の皆様方には、引き続き、地域におけるDOTS支援、結核に関する知識の普及啓発など、結核対策に関する格別の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝ご活躍をお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。

公益財団法人への移行発足について

公益財団法人結核予防会
理事長 長田 功

全国結核予防婦人会の皆さま、日頃、結核予防事業へのご協力ありがとうございます。



「財団法人結核予防会」は、7月1日をもって「公益財団法人結核予防会」に移行して再出発いたしました。以前から「公益財団」のあり方については、その目的をはずれた不適切な活動による不祥事が続いたことから、全面的な見直しが必要とされてきました。そのため、「公益三法」が制定され、結核予防会もそれにのっとり新しく「公益財団法人」として認定されたわけです。

「結核予防会」はもともと公益性の高い事業を展開してきましたので、事業部門では大きな変更はありません。ただ、結核予防会の活動の4大指針、①結核事業②海外協力事業③肺炎やCOPDなどの胸部疾患

対策④生活習慣病対策⑤それらを遂行するために必要な事業を盛り込んだ定款で認められ、新法人下の結核予防会事業が、より公益性について重みを増して、税制優遇などの適応もやや拡大することになりました。

他方、大きな問題も生じました。本部・支部の関係で財務上別法人となるため、従来の「〇〇県支部」の呼称を使用できなくなります。ご存じのように結核予防会の活動は、本部・支部が一体となって推進する事業です。この問題については、本部・支部が十分協議して、従来にもまして一体となった結核予防会グループとして活動できるように対策を考えています。

全国結核予防婦人団体連絡協議会におかれましても、全国大会はもちろん、日頃の結核予防活動、シール募金活動、ネットワーク事業など、従来から多大なご協力をいただきました。新しい法人の下でも、以前にも増して結核予防会活動への推進へのご協力を願っております。

「健康の輪100号」に寄せて

女優 仁科 亜季子

「健康の輪」100号発行おめでとうございます。誰でも生涯健康に過ごせるということは本当に幸せなことですね。でも、その幸せを当り前のように感じている人はとても多いのでは？病気になるって初めて気がつく本当の健康への感謝の気持ち…。



私は38才の時に子宮頸がんを発症しました。当時、子供達は8才と6才。この子達を残して死ぬことなど絶対にできない！その一念で「癌」と正面から闘う決心をしました。私にとって子供達の存在自体が病を乗り越えられる原動力となりました。

そして多くの方々に命を助けていただきましたが、病気に一「癌」にならない方が絶対によいのです。現在、日本でもやっと「子宮頸癌」の為の予防ワクチンが承認され、発売されました。第一次予防でワクチン接種を、第二次予防で検診を…ということをして一人でも多くの方々に考えて頂きたいです。私のような辛く悲しい思いをすることなく、健やかな笑顔の輪がもっともっと広がる様にと願いをこめ、「癌」という病気から、多くを学んだ者の大きな思いをここに寄せました。

「健康の輪100号」に寄せて

社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
副会長 米窪 千加代

「家族の健康は婦人会から」と、戦後まもなく結核制圧の運動が始まり、多面的に著しく進歩を見ました。

長野県では早くから「研修会」や「健康のつどい」が行われ、シール募金運動も続けられています。

広く世界へ目を向けてと、スタディツアーや国際結核シンポジウムにも参加させていただきました。

【結核のない世界へ】これからも生かされて、『健康の輪』が広がることを切望致します。



健康の輪100号発行記念によせて

社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 副会長 木下 幸子

機関誌「健康の輪 全国結核予防婦人会だより」創刊100号 おめでとうございます。

私も結核予防婦人会は、「家族を結核から守り、地域から結核をなくそう」をスローガンに活動を行っております。

「健康の輪」の全国各地域の活動状況や、活動方法を参考にさせていただき、もう一度原点に立ち返り活動を続けていくことの大切さを感じているところです。

今後も、最新の医療情報や、講習会・研修会等の情報を提供していただくことをお願いするとともに、健康の輪の益々のご発展を祈念いたします。



「健康の輪100号」に寄せて

北海道健康をまもる地域団体連合会
会長 齋藤 芳子

健康の輪100号発刊おめでとうございます。結核予防婦人会の全国各地域の活動状況と、総裁秋篠宮妃殿下の御動静とお言葉は、私達の活動の大きな励みと誇りとなっております。地域活動は様々な問題に直面しておりますが、各種団体と連携し、広い視野を持って組織の拡充に努めたいと思っております。



「健康の輪100号」に寄せて

青森県結核予防婦人会
会長 向井 麗子

結核制圧運動の羅針盤的役割を果たしている「健康の輪」が100号の発刊となることを知り、嬉しさと共に感慨深いものがあります。私はこの運動に参加させて頂いていますが、健康を求める人に手助けはできても、健康を創ってあげることは容易ではないと気付きました。

今、自分の体験から「病は気から」を前面に出した活動を続けたいと願っています。



「継続は力なり」

宮婦連健康を守る母の会
会長 三浦 絢子

「健康の輪100号」発行誠にありがとうございます。

「健康の輪」は結核、複十字シールについて、とてもわかりやすい内容等で掲載されておりますので会員の方々はとても勉強になると喜んでおります。また、宮婦連健康を守る母の会では、年間事業の一環として県内を7ブロックに分け結核予防会宮城県支部の先生方のご協力をいただきながら、結核及び複十字シールについての研修会により知識を深め、更には仙台駅前にて街頭啓発キャンペーン運動を実践し、多くの



方々に結核や複十字シールについて広報活動を実施しています。

「健康の輪」を活動の糧として

結核予防婦人会秋田県連合会
会長 小玉 喜久子

100号発刊を心から祝い、今後ますますの内容充実を願いながら感慨をもちました。

平成6年御殿場研修の折、平成7年8月25日逝去されました秩父宮妃殿下御見舞の際、座長役数人が御快癒を祈って色紙の寄せ書きをしたことを思い出しました。機関誌もA4版になり、総裁ご動静、全国大会報告、各地域の研修会報告など、活動の糧として来ました。73号「婦人会員がつくる頁」に『思い出の旅』が、81号には、中央講習会の折の『東京を詠む』短歌と俳句、「会員の頁」にも座右の銘が掲載され、私の『宝』となっています。



「輪」と「和」で健康増進!!

山形県結核成人病予防婦人団体連絡協議会 会長 丹 スワ子

健康の「輪」からの情報収集は大きなものがある。楽しみながらの研修の場でもある。

健康を維持するうえで、健康診断は大変重要であるし、また、人と人



が交流することによる「和」も精神的健康に大変役立つものと考えている。身体的健康の「輪」と精神的健康の「和」を広げ、仲間づくりをして行くことが出来たらいいかな・・・と考えている。

「健康の輪100号」発行を迎えて

福島県健康を守る婦人連盟
会長 佐藤 裕子

本誌が誕生し100号を迎えられましたこと心からお祝い申し上げます。

これまで本誌が長い年月にわたり紡いでこられました活動の歴史は、全国の結核予防婦人会の志の一つに今日まで繋いでまいりました。

この記念すべき年に、本県では東北地区幹部研修会を11月に開催し、また平成23年3月には、第62回結核予防全国大会のお役目を仰せつかっております。是非、全国の皆様にお越しいただけますことを心よりお待ち申し上げます。

今後とも結核予防婦人会の歩みとともに、本誌のますますのご発展をお祈り申し上げます。



「健康の輪100号」に寄せて

茨城県健康をまもる女性団体連絡会
副会長 中島 和子

「健康の輪」
発行100号お
めでとうござ
います。同時
に創立されて
30余年をむ
かえ改めて先
輩緒姉の努力
に感謝申し上げます。



結核予防普及活動「複十字シール運動」を通し、国内外の結核制圧のため積極的な活動を展開し取り組んでまいりました。

さらには知事表敬訪問を行い、各行政への理解も深め多方面からの啓発活動の必要を訴えました。シール募金運動を中心に会員一丸となり地域社会への啓発活動を一層推進してまいります。

「健康の輪100号」発行を
迎えて

群馬県結核予防婦人会
会長 関 マツ

私たち結核予防婦人会の活動は、県地婦連の活動の一環として行っております。本年は、中央講習会、第61回結核予防全国大会（鳥取県）に参加し、日本は今でも中蔓延国であり、世界ではまだ沢山の人が結核で苦しんでいる現状を知りました。

本年も、全県下で複十字シールの募金活動を実施するとともに、県知事への表敬訪問を行い、各地で啓発活動を行っております。



「健康の輪100号」に寄せて

千葉県連合婦人会
会長 西谷 輪子

結核は、国民病と呼ばれていましたが、今は罹患率が減少し、低まん延国にむかっておりますが、結核への関心が低下しているため軽視することはできません。

結核に対する正しい知識を伝え、関心を高めるために、複十字シールの普及に努力しています。そして、みんなが健康で明るい生活を送ることができるよう願っています。



「健康の輪100号」に寄せて

栃木県結核予防婦人連絡協議会
会長 小野 ナツ

「健康の輪」100号発行、おめでとうございます。

古くて新しい病気、結核について正しい知識の啓発と予防意識の普及に大きな役割を果たしております。

毎年行われる複十字シール運動、この運動を通して結核や肺がんを克服して、健康で明るい社会づくりに官民一体の活動に、地域の人々の理解で大きな成果を取っております。



「健康の輪100号」に寄せて

埼玉県地域婦人会連合会結核予防会
会長 片貝 弥生

「健康の輪」発行100号おめでとうございます。9月の結核予防週間にはJR浦和と西口駅頭で、埼玉県のマスコット「コバトン」と一緒に結核制圧のための街頭募金活動を行っています。婦人会から出す郵便物にはシールを貼り、まずは興味を持っていただくことが大切だと思っています。今回の記念誌も多くの会員に読んでいただきます。

今後も複十字シール運動と結核についての普及啓発活動を進めていきます。



「健康の輪100号」発行を
迎えて

非特定営利活動法人東京都地域婦人団体連盟 会長 川島 霞子

わが国は先進国の中で、いまだ中蔓延国である現実には誠に残念です。結核は過去の病であると言う誤った思い込みがまだこの社会の中にあります。私達はこの思い込みをただし、初心にかえて結核制圧のための啓蒙活動を強化しなければなりません。まず秋の複十字シール運動を会員の知恵と努力で成功させたいと存じます。



“シール募金活動で健康の再確認”

神奈川県地域婦人団体連絡協議会
会長 松尾 美智代

9月より結核予防週間がはじまり県内各所で啓発活動がはじまります。主要駅街頭（小田原駅）での会員による呼びかけや、各地域イベントでの啓発活動には重要な感染症である結核、早期発見、早期治療の是非を呼びかけ、改めて会員相互の健康の再認識と共に自分の健康は自分で守るを主眼とし、結核予防シール募金運動を展開しております。



「健康の輪」100号に寄せて

富山県結核予防推進委員長
掘田 紀子

100号おめでとうございます。結核予防を訴え、読んでいる私達に世界中の予防医学が手にとるようにわかり効果のあるものだと思います。国内のみならず世界に目を向けて活動されている多くの方々に感謝するとともに私達もまた感染症の脅威を伝えていかねばならないと感じています。今後とも「健康の輪」を通して学んでいきたいと思ひます。



啓発活動の輪の広がり

石川県結核予防婦人会
会長 高田 千恵子

「中央講習会」「全国大会」「地区別幹部研修会」などの研修内容がすばらしく、企画された皆様に感謝しています。

参加した理事（交代制）は、複十字シール募金活動など、地域における活動に積極的に取り組み、啓発活動の輪の広がりを感じています。今年も県知事表敬訪問をし、啓発活動への協力をお願いしました。



「健康の輪100号」に寄せて

福井県健康を守る女性の会
会長 宇野 千代子

「健康の輪100号」発行にあたり、ここに謹んでお祝い申し上げます。

かつて福井県は、結核王国と云われていましたが、当時の結核予防法の制定以来急速に改善されましたので、近年は、結核を知らない人が増えていると感じています。

結核制圧に向けて、県民の皆様は、結核は決して過去の病気ではないことを認識していただくためにも、我々の役割を再認識し、関係機関と連携しながら普及啓発活動に取り組んでいきたいと思ひます。



「健康の輪100号」に寄せて

静岡県結核予防婦人会
会長 土屋 貞代

「健康の輪は、全国各地で同じ志のもと活動を展開し、また同じ問題を抱えているであろう婦人会の皆さまの現状を知ることのできる機関誌であり、この先結核予防婦人会の歴史を残すことのできる貴重な資料となることと思ひます。編集作業などご苦勞されていらっしゃることに察いたします。

今後とも更なる内容の充実と益々のご発展を願っております。



「健康の輪100号」に寄せて

岐阜県結核予防婦人部連合会
会長 竹中 昌子

8月の暑い日、岐阜県庁を訪れて西藤副知事さんに結核予防、複十字シール運動へのご協力をお願いを致しました。表敬訪問の記事が翌日の新聞に掲載されました。「新聞を見ました。いつもご苦勞様、子供が結核にかかっていたびっくりしました。お陰様で3ヶ月で治り今ホッとしています」と若いお母さん。忘れかけた結核です。結核予防運動はまだまだ続けなければと痛感いたしました。



**「複十字シール運動
キャンペーンに参加して」**
三重県支部 久山 光子

「健康の輪100号」発行にあたり、ここに謹んでお祝い申し上げます。

三重県では、県民の健康推進、福祉に対する理解を深めるためのフェスティバルが毎年各市町村で開催されております。

結核予防婦人会では、その会場で複十字シール運動を行っております。事務局の方々と協力し、シールぼうやの黄色いTシャツを着て、来場者に協力をお願いしております。お子様には風船が大人気です。

年を重ねるごとに結核についての理解を深めていただいていることの効果も感じ取ることが出来ます。

今後も会員を通して、地域の方々と交流を図りながら結核予防に対する活動に励んでまいります。



「健康の輪100号」に寄せて
滋賀県地域女性団体連合会
会長 中野 璋代

7月30日（金）滋賀県健康づくり財団の太田理事長と担当の方、そして滋賀県地婦連からは会長、副会長3人が結核予防週間に先立ち滋賀県の嘉田知事を表敬訪問致しました。知事からは最近の結核感染の



状況等たずねられ、今後もしっかりと活動を続けてほしいとはげまされました。

「100号発刊によせて」
社団法人大阪エイフボランティア
ネットワーク 会長 上ノ山 幸子

このたび100号の発刊まことに改めてとうございます。結核予防運動はエイフ活動の最も重要な活動の一つに位置づけています。

本誌に掲載されている最新の結核情報や複十字募金の使途また各団体の活動報告等は、今後の活動の参考になり募金活動の励みになるなど毎号楽しみに拝読しています。今後ともホットな情報をよろしくお願いたします。



「健康の輪100号」に寄せて
財団法人兵庫県健康財団
松下 有紀

「健康の輪」100号の発行、心からお慶び申し上げます。

兵庫県連合婦人会では、「健康の輪」によって提供される時宜を得た様々な情報や全国各地域の創意工夫に満ちた活動などを参考にするとともに大きな励みとして、複十字シール運動キャンペーンや結核予防週間における街頭活動など結核の制



圧に向けて様々な活動を展開しています。

今後とも、「健康の輪」が結核予防に取り組む婦人会への有益でタイムリーな情報提供誌として、その役割を果たしていくことを期待しています。

「健康の輪100号」に寄せて
奈良県健康を守る婦人の会
会長 中島 祐子

平城還都1300年祭で賑わっている大和路平和そのものであります。ところが結核に対する意識の弱さはかくし切れません。

幸いにも、近畿地区結核予防幹部講習会の開催県にあたり、この機会を利用して国が押し進めている（ストップ結核パートナーシップ日本）をテーマにして研鑽をする。当日は、着ぐるみ（シールぼうや、蓮花ちゃん）にも登場願ひ、複十字シールの重要性を強訴え続けます。



拳骨飴

（大和に伝わる昔の手作り飴）

〈材料〉A はったい粉 45g
きな粉 65g
砂糖 25g
水飴 150g
打ち粉、仕上げ用
はったい粉 少々

〈作り方〉

- (1) ボールに材料Aを入れてよく練り混ぜる
- (2) 打ち粉をして、(1)を1本50gに取り分け約1cmの棒状にのぼす
- (3) 1本を13～15切れ位に斜め切りにする
- (4) (3)にはったい粉をまぶして出来上がりです。

奈良県健康を守る婦人の会
会長 中島 祐子

「健康の輪」100号を 迎えられて

鳥取県健康を守る婦人の会
会長 井勝 道子

教育・広報機関誌「健康の輪」100号を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。

昭和52年11月より今日までの長きにわたり、発行を続けられたご尽力とそのためまいご努力に対し敬意を表します。

私達「鳥取県健康を守る婦人の会」は、昭和60年4月の総会において、食生活改善推進員が健康を守る婦人の会員として、全国結核予防婦人団体連絡協議会に加入し、複十字シール運動期間には、平井知事様への表敬訪問、そして結核予防週間には、平井知事ご夫婦と共に複十字シール募金キャンペーンを実施しています。

また、私達は食生活改善推進員ですので、健康づくりはお手の物です。複十字シール運動・禁煙運動を始め生活習慣病予防、21世紀を担う子どもたちに正しい食習慣をと、おやこの食育教室・元気で明るく長生きしていただくため、高齢者の低栄養予防・男性の料理教室等、今後も健康づくり運動を会員同士が手をつなぎ協力し合って明るい社会を築いていきたいと思ひます。



「健康の輪100号」発行を 迎えて

鳥根県連合婦人会 会長 赤水 照子

昭和52年11月から、健康の輪を年間3回発行され、100号を迎えられたその足跡に感銘いたしました。おめでとうございます。

「結核を制圧しよう」の思いで毎号を楽しみに読ませて頂きました。

鳥根県連合婦人会も複十字シール募金の協力や、街頭募金、スタディツアーでのネパール視察に参加するなど、懸命に活動して参りました。

①結核が世界最大の感染症であり、結核の正しい知識をアピールしよう。

②「長引くせきは赤信号」結核もガンも早期発見、早期治療の大切さを知ること。

③全国組織である事を生かし、街頭募金など全国一斉に活動を展開すること。

健康の輪が益々広がり、すべての人が幸せに暮らせるよう、結核の制圧を祈念致します。



「健康の輪100号」発行を 迎えて

岡山県愛育委員連合会
会長 藤本 貴子

岡山愛育連合会は、昭和59年から団体の一員として、複十字シール運動を中心とした結核予防活動に取り組んでいます。本誌は、地域の活動の情報発信をはじめ、会員間での情報交換に大きな役割を担ってこられました。今後も本誌を中心に会員の皆様と手を携えて、結核の無い地域を目指して活動を続けていきたいと思ひます。



「私たち女性会の活動」

広島県地域女性団体連絡協議会
会長 瀬野 周子

健康でありたいとは世界中の誰もが願うことです。人生の目的が健康ではありませんが、健康なくしては目的を達する事は出来ません。私達女性会では生活習慣病の予防については各地で健康教室、食生活教室等を開催して意識を高め、結核予防については、結核は過去の病気とと思っている人が多いこと、結核患者は高齢者に多い事を意識して行政で実施される検診の受診勧奨をしたり、複十字シール運動に合わせ呼びかけをしています。子ども達にもと、学校や保育所を夏休み前に訪問します。複十字シール運動では結核予防会の方と共に県知事を表敬訪問して協力を依頼し、他に一日広島市内のスーパーの前で乳ガンと胸部のX線検診と併せて予防の呼びかけを行っています。家族が元気であることが家庭を明るくし、ひいては地域の活力に、また医療費の削減につながるものと思ひ活動が続けたいと思ひています。



「ホッペ美人」
初孫の「彩萌」(あやめ)です。



静岡県伊東市 上島 まつ江

「健康の輪100号」発行を 迎えて

山口県結核予防婦人会
会長 林 登季子

「健康の輪」がこのたび100号を迎えますことを心からお祝い申し上げます。

簡単に100号と云いまして、30数年続いているということは私たちの活動の歴史そのものでもあり、とても素晴らしいことです。

そして、健康の輪が150号200号と続きますよう、人々が明るく健康な生活が送れるよう、ますます身を引き締め活動に精進したいと思います。



健康の輪・100に寄せて

徳島県婦人団体連合会
会長 横関 ヨシ子

全国結核予防婦人会だより「健康の輪」100号発刊おめでとうございます。

86号までは B5版右綴の冊子でしたが、87号からA4版左綴、横書きの冊子に改められ、はや13冊が発行されています。大判であり、横書きなので表やグラフ、地図など見易く大判になって良かったと思います。

健康の輪には多彩な記事や写真も掲載され両陛下・総裁秋篠宮妃殿下様のお姿やお言葉にも触れさせて頂ける幸せが有り感激です。

各地域予防会の情報や動向、各種大会の案内や状況、調査結果報告、学者や識者のお考え、更には世界の情報等、参考になることが満載され、いつも楽しく読ませて頂きます。

『他人事とは思えないね。』

結核は現代の病気だ』

ストップ結核大使 ビートたけし様

私たち結核予防婦人会も、更に制圧に向けて頑張ることをお誓いし、100号にご期待申し上げお慶びの言葉と致します。



「健康の輪」100号に寄せて

香川県婦人団体連絡協議会
役員 白川 アヤ子

私が「健康の輪」をはじめて手にしたのは第3回結核予防関係婦人団体中央講習会に参加した時でした。結核予防婦人会のあゆみと複十字シール運動が予防事業や国際協力に役立っていること、結核がなお世界中に広がっていることを認識した機会であったように思います。その会場で詠んだ一句が「健康の輪」に掲載されたことも忘れられない思い出です。

今後もこの「健康の輪」が地域につながり、親しまれ、健康のための啓発活動がますます高まることをこちらから願っています。



第100号を記念して

愛媛県結核予防婦人会
会長 川本 登倭子

私たち、婦人会が結核予防に携わってから、30余年になります。結核予防婦人会の



母体である連合婦人会は、今年60

回記念の大会を行います。その中でも結核は過去の病気ではなく、現在でも蔓延している病気だと言うことを伝えるつもりです。愛媛県内の婦人会では、複十字シールを敬老会のお土産やお手紙に添付して啓発を兼ね配布しています。シールを見て、「これはなあに？」と聞かればここぞとばかりに説明します。聞かれなくても説明をしながら手渡すことにしています。

毎年キャンペーンの一環として、人通りの多いデパートの前で複十字シールの募金活動をしますが、道行く人たちはあまり関心がなくがっかりするものです。私たち婦人会からもっと次世代の若い人たちに身近な病気だと言うことを知らせるためには、どのような活動をすべきか、今一度この100号を記念して考えていかねばならないと感じています。

「健康の輪100号」に寄せて

高知県健康づくり婦人会連合会
会長 寺尾 敦子

今年で35回目となる知事表敬訪問を8月6日、総勢22名で実施いたしました。

全国に先駆け昭和51年から継続する私達の誇りであります。

今年は気分も一新、ピンクのユニフォームを新調し知事様との面談が初お披露目となりました。

現在迄のシール募金婦人会扱い額が2億150万円になった報告に、知事様から感謝と励ましの御言葉を賜りました。



「健康の輪100号」に寄せて

健康を守る佐賀県婦人の会
会長 三苫 紀美子

健康の輪100号記念をお祝い申し上げます。

県内での活動の輪が広がりを見せているのは「健康教室」です。「自分の健康は自分の手で守ろう」を合言葉に体操、食のこだわり、講演会等活発な取組みがなされています。

今後も病気の予防は勿論、住民健診の薦めも積極的に行い、誰もが健康で元気な地域づくりを目指したいと願っています。



「健康の輪100号」発行を
迎えて

財団法人長崎県地域婦人団体連絡
協議会 会長 牟田 久美子

最近又、少しずつ結核が流行っている様です。「今、全市町村区で検診が行われていますので必ず受診しましょう」結核予防活動に向けて集団感染の予防、募金の呼びかけに努力し、婦人会の立場から「複十字シール運動」への取組、高齢者世帯への訪問、声かけ運動、複十字シール運動の目的と使命、結核や胸の病気に関心を持って頂きたい、という願いを込めてこれからも行政等へも働きかけ全会員努力して行きたいと思ひます。



第14回結核予防婦人団体
中央講習会に参加して

大分市地域婦人団体連合会
会長 一ノ宮 サヨ子

私は大分県の理事になってまだ2年ですが、2月に開催された講習会に初めて参加させていただきました。先ず、午後1時の開講式に秋篠宮妃殿下がご臨席され、優しく微笑みながらのお言葉を身近に拝聴することができ、自分の目、耳を疑う程感動しました。

1日目は結核予防婦人会について、複十字シール運動、更年期のヘルスケア、COPD対策等々盛沢山受講しました。2日目は、子宮頸がんは予防できる、と題して自治医科大産婦人科の鈴木光明教授のワクチンを軸にした講演がありました。11歳から14歳がもっとも効果的だと説かれました。続いて仁科亜季子さんが闘病生活の体験を詳細にお話し下さいました。私自身の肺がんと葛藤を思い出し一瞬涙しました。仁科亜季子さんは体験を話すことが自分の使命だといわれて閉じました。

情報交換会も地域のニーズにあった様々な取り組みの様子が伺えました。こうして2日間の講習会は終了しました。

私は一会員としての30年を振り返り結核予防婦人会の存在にさえ関心がなく、複十字シール運動月間に十分な内容の把握もなく、与えられた数を販売した事に恥ずかしさを感じます。こうして理事として、また、講習会に参加することで複十字シール募金の重要性、結核に関する知識の必要性、結核予防婦人会としての在り方を再認識し、今後更に市婦



連大会や研修会で会員意識の高揚を図り、又、会員自身の健康管理の促進に努めたいと思っています。

こうした学ぶ場に出会えた事に感謝し、会員にも普及したいと思っています。

「健康の輪100号」発行を
迎えて

宮崎県健康増進婦人の会
会長 谷口 由美繪

「健康の輪100号」発行おめでとうございます。

型は、可愛い冊子ながら全国各地の活動状況や国の対策情報等大変役立っています。

今年の結核予防週間の初日には、県庁前から横断幕を持って目抜き通りのパレードと通行人への啓発活動を行いました。

「自分の命は自分で守ろう」を合言葉にして実践活動に力を入れていきたいと思ひます。



衆議院議員会館訪問

去る9月9日、社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 中畔都舎子 会長、公益財団法人結核予防会結核研究所 石川信克 所長、以下3名で、民主党副幹事長 今野泉 様へ「結核研究所支援のお願い」に伺いました。



検診率アップを目指して

鹿児島県結核成人病予防婦人会
会長 伊佐 幸子

私達の県では、10の地域ごとにガン、結核及び生活習慣病を予防するため、健診の普及、啓発を目指し、学習大会を開催しています。延べ4,000名の結核予防婦人会会員が集い、県民総合保健センターの瀬戸山副理事長の講演で学びます。地域の人々の健康を願い、10年後、健診率50%を目指して啓発のチラシも配布しています。

**「健康の輪」100号に寄せて**

沖縄県結核予防婦人連絡協議会
会長 大城 節子

全国結核予防婦人会だより健康の輪は結核についての情報等勉強

になる。

特にシール運動の各県の結果を知る事に一喜一憂と同時に次への活動のステップになる。

平成21年度複十字シール取り扱い対象別各県状況、22年3月31日現在の結果を知った。平成17年から22年度沖縄県の上位に沖縄の結いの心（助け合う心）で世界の人々の健康のために頑張ると決意する。

**「健康の輪」100号に寄せて**

社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
理事・事務局長 山下 武子

「健康の輪」100号の持つ意味について、事務局をお預かりしている立場から。

平成15年には160万人いた会員

は現在100万人へと減少してきております。町村合併の促進、会員の高齢化、結核の減少などが主な原因と言われておりますが本当にそれだけでしょうか？働き盛りの婦人、子育て真最中の婦人が参加できる活動になっているのでしょうか？本当に結核の問題はなくなってきているのでしょうか？。どうすれば…？と、答えを探して様々な異業種、サークルを覗いて模索している毎日です。

健康で生涯現役婦人を沢山増やしていく仕組みが求められていると強く感じます。誰かのために、地域のために、日本のために、世界のために役に立つ生き方、年齢や性別を超えて、「人」として生涯現役、生ききる人生を求めて、会員の皆様とともに考え実践できる事務局を目指して精進して参ります。今後とも皆様の益々のご支援よろしくお願いたします。

「子宮頸がん予防ワクチン接種費用の助成について」

社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 理事 大塚 満子

浦安市では、中学1年生から中学3年生までに相当する年齢の女子（約2,500名）に対して「子宮頸がん」予防ワクチン接種費用を全額助成しています。

6月の市議会で約2,586万円の予算が承認され、8月1日から内科、小児科、産婦人科など浦安市医師会加入の市指定医療機関でワクチン接種が始まりました。

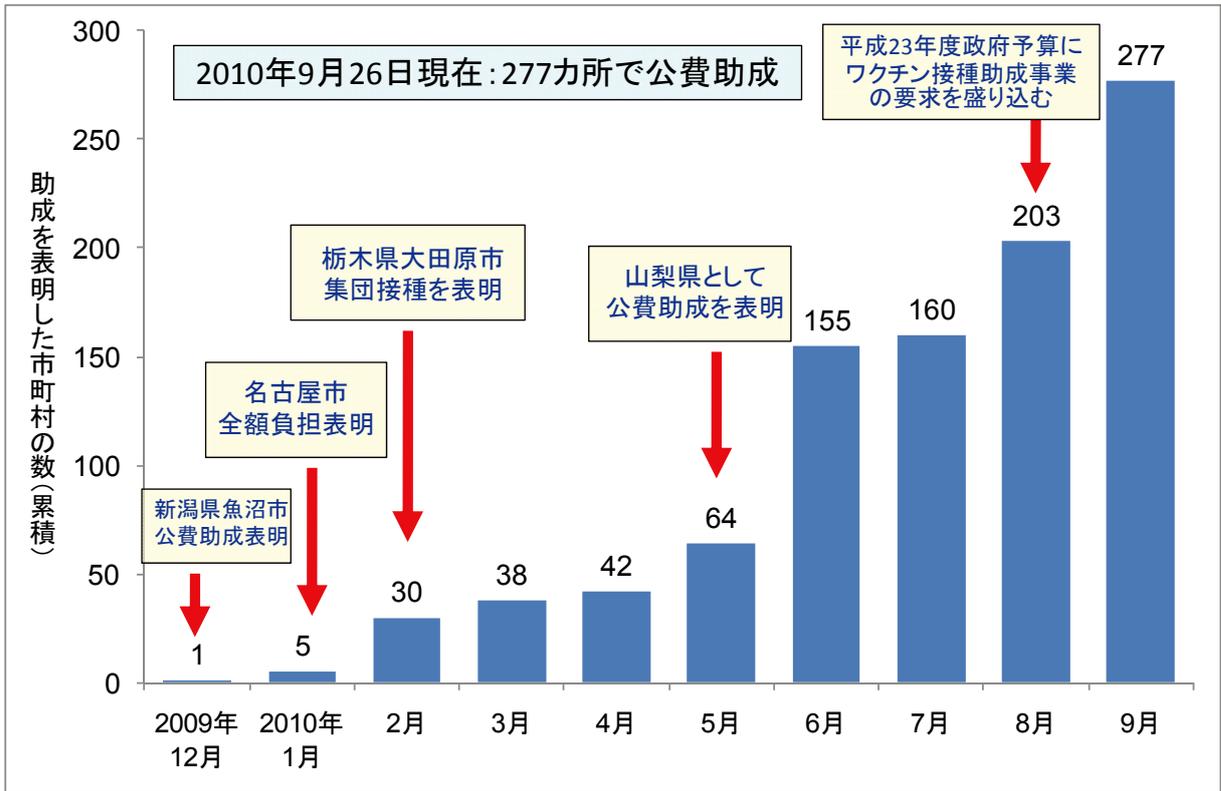
スタートから一ヶ月間に「子宮頸がん」予防ワクチンを接種した中学生は約400名ということでした。夏休み中であったことから、予想を上回る接種率であり、担当者は、次の議会では予算を増額する予定と話していました。

浦安市では夏休みに入る前、女子中学生と保護者に向けて「子宮頸がん」という病気について、予防ワクチンの接種や検診の大切さについてなどを詳しく説明したチラシを作り、既成のパンフレットと一緒に各家庭に配布したそうです。きっと各家庭で、大切な命を守るための親子の話し合いがなされ、予防ワクチン接種についての理解が深まったのではないのでしょうか？

浦安市は、日本産婦人科学会の資料などに基づいて、費用助成対象者を中学生に相当する年齢と決めましたが、市民からは高校生への対象拡大が要望されているとのことでした。

最後に、結核予防会・全国結核予防婦人会が陳情してきた「子宮頸がん予防ワクチン地方自治体の公的助成」が現在までに250を超える市区町村で取り組まれていることは大変喜ばしいことです。

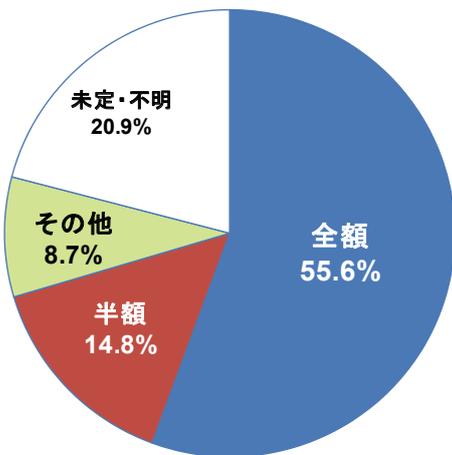
子宮頸がん予防ワクチン公費助成の推移



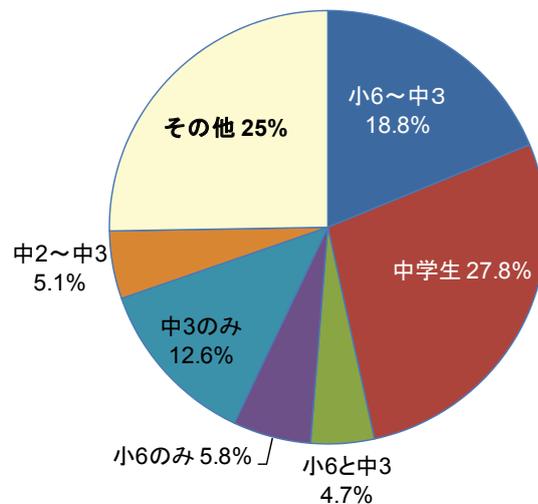
新聞等により報道された内容を基に作成(2010年9月26日現在)

子宮頸がん予防ワクチン公費助成状況

助成額の内訳



助成対象の年齢



新聞等により報道された内容を基に作成(2010年9月26日現在)



子宮頸がん啓発ウオーク
私は、ワクチン。ママは、検診。

Cervical Cancer 子宮頸がん啓発
Walk

2010.11.23 10:30~11:30 START!

Start & Goal!
Shinjuku
Bunka Women's University
Yoyogi
Meijiingu
Jingu Stadium
Harajuku
Gaien-Mae
Omotesando

* 開催日時

11月23日（祝・火）

講演会は、10時～11時

ウォーキングのみ参加は、10時半より随時スタート

* 開催場所

東京・渋谷 / 文化女子大学（スタート / ゴール）

※新宿—明治神宮コース、新宿—明治神宮—神宮外苑コースの2つを設けております。

* 講演会

1. 鈴木光明先生（自治医科大学産婦人科主任教授、日本産婦人科医会常任理事、子宮頸がん征圧をめざす専門家会議実行委員）

2. 女優・仁科亜季子（予定）

※講演会は、無料（1,500名まで入場可能）

* 定員

ウォーキング：2,000名 講演会：1,500名

* ウォーキング併設イベント

1. 子宮頸がん相談ブース（本会場建物内） / 助成産婦人科医担当

2. ウォーキング相談ブース / （本会場中庭） / 健康ウォーキング指導士担当

3. 特設ブース（本会場入口、甲州街道に面した場所）

4. Twitter 写真投稿（ウォーキングルート上）

※1・2は定員制です。（事前にお申し込みください）

* 参加費

事前申込の場合：大人 1,000円、大学生・高校生 500円、小中学生・未就学児 無料

当日申込の場合：大人 1,500円、大学生・高校生 500円、小中学生・未就学児 無料

※参加者には、参加ノベルティ（バンドナ等）を差し上げます。

※大会当日、文化学園服飾博物館（入場有料）に大会参加者は無料で入館できます。

【主催】

社団法人日本ウォーキング協会

【共催】

女子大生リボンムーブメント

財団法人健康・体力づくり事業財団

【お申し込みお問い合わせ】

「子宮頸がん啓発ウオーク」事務局

03-5381-7351

<http://healthWalk.jp>

〈大会メッセージ〉

「私は、ワクチン。ママは、検診。」

今、若い世代に増えている子宮頸（けい）がん。

日本では年間、約15,000人が発症し、3,500人が亡くなっている。

だけど、「予防できるがん」でもある。

救える命を守るため、もっとたくさんの人に知ってほしい。ひとりひとりの思いを重ね、みんなで歩く。

もっと多くの人に、知ってもらうために。子宮頸がんが亡くなる人をゼロにするために。

ぜひ、ご家庭、ご友人をお誘いいただきご参加くださいませ。

婦人会の手で 複十字チャリティーサイクルを 日本全国へ！

8月1日から複十字チャリティーサイクル運動がスタートしました。

この運動は、不要になった本・DVD・CD・ゲームソフト等を公益財団法人結核予防会に寄贈を受け、これを回収して買取業者（ブックオフオンライン株式会社）で換金を行い、複十字シール運動募金に寄付することを目的とします。不要になった本・DVD・CD・ゲームソフトを約30点をダンボール箱に入れて梱包し、結核予防会資金課へFAX（ちらし兼申込書）または、電話（フリーダイヤル）で申し込みすればOKです。

結核のない世界の実現のためには、皆様の温かい支援が是非とも必要です。複十字チャリティーサイクル運動にご協力をお願いいたします。

※ラモス氏のちらしを無料で配布しております。
（送料のみ負担）お申込は、資金課まで

チャリティーの輪を日本全国へ広げよう！ 複十字チャリティーサイクル運動



複十字チャリティーサイクル運動って？

複十字チャリティーサイクル運動は、不要になった本・DVD・CD・ゲームソフト等を公益財団法人結核予防会に寄贈を受け、これを回収して買取業者（ブックオフオンライン株式会社）で換金を行い、複十字シール運動募金に寄付することを目的とします。

この運動を通じて、現在、結核予防会が実施している東アフリカ・インドネシア・ミャンマー・カンボジア・アフガニスタンのゲザニアにおける結核予防会の活動を支援し、結核予防会資金課へ寄贈された募金を活用させていただきます。

また、日本の結核は世界の中では中々減りません。結核の予防、普及、研究事業についての資金形成を行っております。海外上層では、結核治療にも大切な役割を担っており、治療までの半年以上は十分な治療が必要です。その資金源として複十字チャリティーサイクル運動で寄付された募金を活用させていただきます。

STEP1 お申し込み 複十字シール運動募金に申し込みます。
0120-416864

STEP2 集荷 申し込みが完了したら集荷いたします。

STEP3 募金 集荷された募金を結核予防会に入会させていただきます。

申込書 FAX 03-3292-9208 お申し込み日 月 日

氏名 _____ 電話番号 _____

住所 〒 _____

集荷希望日時 月 日 午前中 午後 夕方以降
9:00-12:00 12:00-16:00 16:00-21:00 所属 _____

主催 公益財団法人結核予防会資金課 千代田区三崎町1-3-12 ☎0120-416864

健康の輪 原稿募集！

社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会では、機関誌『健康の輪』を年3回、

1回につき約3万5千部発行し、婦人会の皆さまにお届けしています。

婦人会の皆さまにどんどん参加していただける誌面づくりをめざし、

会員の方々に様々なテーマで原稿を募集しています。

イラスト・カット・トピックスから自慢まで・・・なんでも結構です。

ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 事務局宛

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 1-3-12

Tel : 03-3292-9288 Fax : 03-3292-9208